

理学療法学科・作業療法学科1年

授業科目名	倫理学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 15時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	倫理学
担当講師	日高 明
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	本講義では、倫理学の基礎を学ぶとともに、医療やケアの現場で起こる倫理的な問題を取り上げ、生命倫理の多様な現状を紹介します。受講者がこれらについて考え、話し合うことで、自身の生命観や人間観を捉え直し、ひいては医療人としていかに患者に向き合うかを自覚することを目指します。
授業の概要	<p>各回、下に挙げたテーマからいくつかをピックアップして、講義を行います。受講する学生の興味や進行状況に応じて、各回の内容を変更することもあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間とは 様々な「人間」の定義、人間と動物とのギャップ、人間の社会性</li> <li>2. 規範倫理学 功利主義／義務論／徳倫理学／ケアの倫理</li> <li>3. 患者の権利と自己決定 生存権／患者の権利／意識喪失患者・法的に無能力な患者の権利</li> <li>4. 臨床のコミュニケーション コミュニケーションの意義・目的・技法／バイステックの7原則</li> <li>5. 生 代理出産／出生前診断／デザイナーベビー／優生思想</li> <li>6. 老・病 抑制／虐待／介護殺人／資源の配分／インフォームド・コンセント</li> <li>7. 死 脳死／終末期医療／安楽死・尊厳死</li> <li>8. 討論</li> <li>9. 試験</li> </ol>
テキスト 参考書	資料を配布します。
評価の方法	定期試験 試験は毎回の講義の内容から出題します。また、短い記述式の問題も出題します。
授業の形式 受講上の注意	座学 場合により、オンラインにて実施する。

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	体育
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 15時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	体育
担当講師	藤村忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》保健体育教員免許
授業の目的	医療や介護の現場では身体を使って仕事をする機会が多い。またチームアプローチという集団の中で行動するために、秩序正しく能率的な動きが求められる。講義を通して、体力の向上と秩序ある行動様式の習得、さらに精神面の向上（学習意欲の向上など）を図る。
授業の概要	<p><u>講義の概略構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団行動とは                      集団行動の必要性の理解                      大きな声を出すことに慣れさせる。                      基本的な行動様式の習得                      約束や決まりを守らせることの重要性                      敏速且つ的確な行動の習得                      リーダーの指示による行動の習得</li> <li>・ 基本的行動の習得                      姿勢                      方向転換                      集合・整列・番号・解散                      列の増減                      開列                      行進                      足踏み                      礼</li> <li>・ 各学科での集団行動演技の構成決め・練習</li> <li>・ 集団行動発表会の実施</li> </ul>
テキスト 参考書	特になし。
評価の方法	最終講義にて実施する発表の内容によって評価する。
授業の形式 受講上の注意	講義は講堂にて行う（実技形式）。

理学療法学科・作業療法学科1年

授業科目名	公衆衛生学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 15時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	公衆衛生学	
担当講師	亀山一義 國近敏伸	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 関連資格 作業療法士(亀山・國近)	
授業の目的	公衆衛生は、保健・医療・福祉を包括する学問である。その領域は、これらの分野を学術的に連携する多岐な要素を持っている。理学・作業療法士にとって重要となる項目に焦点を当て、講義を行う。	
授業の概要	第1回	公衆衛生とは(担当: 國近敏伸) 《到達目標》 ・疫学について理解し、説明することができる。
	第2回	地域保健と保健行政(担当: 國近敏伸) 《到達目標》 ・保健所と市町村保健センターの業務と役割について答えることができる。
	第3回	精神保健について(担当: 國近敏伸) 《到達目標》 ・わが国の精神保健行政の変化の特徴を答えることができる。
	第4回	生活習慣病について(担当: 國近敏伸) 《到達目標》 ・脳卒中の危険因子とその予防について答えることができる ・悪性新生物で死亡率が増えている部位について、それぞれの増加の原因を述べる事が出来る。
	第5回	感染症について(担当: 國近敏伸) 《到達目標》 ・感染予防の対策を感染症を例に挙げ、それぞれ答えることができる。
	第6回	難病について(担当: 亀山一義) 《到達目標》 ①: 指定難病を理解し、説明することができる。 ②: 難病対策を理解し、説明することができる。 ③: 難病に対してPT・OTができることを考える。
	第7・8回	難病について(担当: 亀山一義) 《到達目標》 ①: グループごと指定難病の概要等を調べる。 ②: 指定難病に関する発表ポスターを作成する。
	テキスト 参考書	配布資料
評価の方法	グループワークで作成したポスターの内容(概要・治療法)・デザイン(配色・配置)を総合的に判定する。	
授業の形式 受講上の注意	座学形式	

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	社会福祉学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	社会福祉学	
担当講師	塚原 健司	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》社会福祉士	
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉的な視点で社会を見ていくことで各々が新たな視野をひらき理解がすすむことをめざす。</li> <li>・OT・PTとして業務を進めていく上で必要な社会福祉制度について学ぶ。</li> </ul>	
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉・社会保障の基本理念と発展過程</li> <li>2 児童虐待</li> <li>3 生存権と公的扶助</li> <li>4 年金制度</li> <li>5 医療保障と介護保険</li> <li>6 障害者福祉と高齢者保健福祉</li> <li>7 期末テスト対策</li> <li>8 期末テスト</li> </ol> <p>・学習の進捗や状況によって変更することもあります。</p>	
テキスト 参考書	社会福祉 新川 泰弘・宮野 安治編著 青踏社	
評価の方法	授業態度	20%
	レポート	30%
	期末テスト	50%
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には講義形式ですが、グループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。</li> <li>・社会情勢や価値観の変化などについて社会福祉的な視点で考えることを期待します。</li> <li>・場合により、オンラインにて実施する。</li> </ul>	

理学療法学科・作業療法学科1年

授業科目名	生物学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 15時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生物学
担当講師	山本 一夫
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	生物学領域の中の動物（人体）の構造とはたらきに特化した内容を習得することで、理学・作業療法学科の専門分野を理解する基礎とする。 科学的なものの見方・考え方に触れることで、医療従事者としてのスキル獲得の緒としたい。
授業の概要	第1回 細胞と器官 第2回 物質交代とエネルギー 第3回 動物の恒常性と調節1 血液の循環 第4回 動物の恒常性と調節2 血液の働きと免疫の仕組み 第5回 動物の恒常性と調節3 排出 ホルモン 第6回 神経系とその働き 第7回 遺伝の法則と進化 第8回 試験
テキスト 参考書	講義データ
評価の方法	期末試験の成績により評価する。
授業の形式 受講上の注意	一斉授業（講義形式） ※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	日常英語
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常英語	
担当講師	Fidel G.Montoya	
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
授業の目的	Beginner's Survival English	
授業の概要	1.Introductions Group Assignments Text:Passport Unit1	Introducing yourself Where, Who, What Picture Speculation
	2.Text:Passport Unit2,3	Simple questions Numbers and money
	3.Text:Passport Unit4	Simple questions Hotel Reservations role play
	4.Text:Passport Unit4,5	Could I, Can I, Do you mind...? Giving Directions
	5.Text:Passport Unit6,7	Making plans, asking permission Seeing the Doctor
	6.Text:Passport Unit8,9	Asking questions,Discussions,Reporting Making appointments Restaurant role play
	7.Text:Passport (Review)	Class discussion, likes dislikes Review all units
	8.Test	Unit 1-9
テキスト 参考書	Passport Student's Book	
評価の方法	Test	
授業の形式 受講上の注意	・場合により、オンラインにて実施する。	

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	物理学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	物理学
担当講師	森澤 文博 橋本 宜昭
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物理法則について理解する。</li> <li>・地球上で生活する人間も物理法則にしたがって運動していることを理解する。</li> <li>・物理学が理学療法士、作業療法士にどのように関連するか理解する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理量とその表し方</li> <li>・物理学で使うグラフと関数</li> <li>・いろいろな運動</li> <li>・さまざまな力</li> <li>・力のつり合いと運動の法則</li> <li>・物体の重心と回転運動</li> <li>・運動量・仕事とエネルギー</li> </ul>
テキスト 参考書	配布資料
評価の方法	<p>期末試験</p> <p>小テスト</p>
授業の形式 受講上の注意	<p>一斉授業（講義形式）</p> <p>※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。</p>

理学療法・作業療法学科 1 年

授業科目名	教育学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	教育学
担当講師	西田美恵子
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が生きるという事と、教育の関わりを明らかにする。</li> <li>・教育の歴史を通し、教育について知見と広い視野を持つ。</li> <li>・社会に有為な資質の醸成と、アイデンティティーの確立の必要性を把握する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1 教育の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文明のあけぼの～文明・文化というもの <ul style="list-style-type: none"> <li>・文明の発達と文字文化（書写材） 人類と文字の発達・教育</li> </ul> </li> <li>○古代、中世、近世における教育というもの（日本） <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代国家 必要不可欠である文字の発達（漢文・万葉仮名）</li> <li>・中世 武家と五山文学 芸能ラッシュの背景となる教育とは</li> <li>・近世の時代が要請する学びと民衆 手習い</li> </ul> </li> <li>○明治維新以降 ～西洋文化に追いつく日本の教育制度とその奇跡</li> <li>○教育の発達と教育の原点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・民衆教育の父「ペスタロッチ」 「デューイ」 経験論</li> <li>・社会の要請と高まる専門性</li> </ul> </li> </ul> <p>2 教育論が問う人間形成の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自我の発達論～エリクソン「アイデンティティーの確立」</li> <li>○ボウルビー「愛着理論」等</li> </ul> <p>3 現代の教育の課題</p>
テキスト 参考書	講義資料
評価の方法	ワークシート（毎授業提出）、テスト（最終日） 欠席した場合、ワークシートは当日のレジメを熟読のうえ記載し次回に提出
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学</li> <li>・課題について話合いの時間を持つ場合がある。それぞれの意見交換を通し、意見を聞き合い、互いに深め合っていきたい。</li> <li>・場合により、オンラインにて実施する。</li> </ul>

理学・作業療法学科1年

授業科目名	リハビリテーション概論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	リハビリテーション概論
担当講師	小林 憲人
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》理学療法士
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションとは何か。</li> <li>・理学療法と作業療法を中心に学ぶ。</li> <li>・現在の病院の制度（医療介護保険について）理解を深める。</li> <li>・保健制度や政策を理解する。</li> </ul>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.リハビリテーションの概論・歴史</li> <li>2.リハビリテーションのかかわり方（医療・介護保険制度）</li> <li>3.介護保険について（食事介助・患者様との距離を学ぶ）</li> <li>4.急性期・回復期・生活期のリハビリテーションについて</li> <li>5.がんのリハビリテーション</li> <li>6.チーム医療・2040年問題</li> <li>7～15. グループワーク・発表会</li> </ol> <p>（課外講義の予定；日程は後日連絡します）</p>
テキスト 参考書	リハビリテーション総論：椿原 彰夫 編
評価の方法	グループワークやレポート、発表からの総合的判断
授業の形式 受講上の注意	<p>座学</p> <p>※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。</p>

授業科目名	運動学 I・II
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 2単位 60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	運動学 I・II	
担当講師	亀山 一義	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	身体運動の仕組みを理解し、正常運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけることができる。それらを身につけるために①力学原理に基づく運動の記述と解釈、②筋骨格系の構造・機能と関節の運動との関係、③日常生活における基本動作について学習する。	
授業の概要	第 1-2 回	生体力学の基礎 《到達目標》 ①：生体力学における運動学と運動力学を理解する。 ②：身体運動における運動学および運動力学的分析を理解する。
	第 3-7 回	生体の構造と機能 《到達目標》 ①：骨および関節の構造を理解する。 ②：関節運動を理解する。 ③：骨格筋の構造と収縮様式を理解する。
	第 8 回	テスト① テスト範囲：第 1-7 回までの講義内容 テスト形式：記述
	第 9-14 回	上肢帯および手指の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①、②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第 15 回	テスト② テスト範囲：第 9-14 回までの講義内容 テスト形式：記述
	第 16-22 回	下肢帯の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①、②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第 23 回	テスト③ テスト範囲：第 8-14 回までの講義内容 テスト形式：記述
	第 24-29 回	体幹の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①、②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第 30 回	テスト④ テスト範囲：第 23-29 回までの講義内容

		テスト形式：記述
テキスト 参考書	中村隆一他著：基礎運動学	
評価の方法	テスト①・②・③・④の平均点が 60 点以上を合格とする。 *運動学Ⅰはテスト①・②，運動学Ⅱはテスト③・④を評点とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学（場合により web での講義もあり）	

はくほう会医療専門学校赤穂校

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	解剖学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	解剖学 I
担当講師	森澤 文博
授業の目的	<p>方向目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 療法士の基礎 3 本柱の 1 つである解剖学の中でも「骨・筋」を中心に、身体の構造を立体的に把握・イメージ化していく</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 骨の名称、部位の名称を記載できるようになる</li> <li>➤ 骨模型を並べられるようになる</li> <li>➤ 筋の起始停止を覚え、自他の身体でトレースできるようになる</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 総論 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 身体の区分、全身の骨の名称</li> </ul> </li> <li>② 上肢の骨 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨</li> </ul> </li> <li>③ 下肢の骨 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾骨</li> </ul> </li> <li>④ 頭頸部・体幹の骨 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 頭蓋骨、椎骨、胸骨、肋骨</li> </ul> </li> <li>⑤ 全身の骨配置 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 机上に骨標本を正確に配置する</li> </ul> </li> <li>⑥ 上肢の筋 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 名称、起始、停止</li> </ul> </li> <li>⑦ 下肢の筋 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 名称、起始、停止</li> </ul> </li> <li>⑧ 体幹の筋 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 名称、起始、停止</li> </ul> </li> </ul>
テキスト 参考書	PT・OT ビジュアルテキスト 専門基礎 解剖学：羊土社 プロメテウス解剖学アトラス：医学書院
評価の方法	筆記試験：90%（骨10%×3回 筋20%×3回） 実技試験：10%（骨配置）
授業の形式 受講上の注意	座学・実技形式

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	解剖学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	解剖学Ⅱ
担当講師	中村 めぐみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p><u>方向目標</u>                      理学療法士・作業療法士の基礎の3本柱の1つであるのが解剖学である。この解剖学Ⅱでは循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・内分泌系といった主に臓器についての構造を学んでいき、高齢者の大半が罹患している内部障害系疾患に対応する基礎を身につける。</p> <p><u>到達目標</u>                      臓器の構造、役割について理解する。</p>
授業の概要	<p>1.循環器系                      肺循環と体循環、血管の構造、心臓、全身の動脈・静脈</p> <p>2.呼吸器系                      咽頭・喉頭、気管と気管支、肺、縦隔</p> <p>3.消化器系                      口腔、唾液腺、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、嚥下</p> <p>4.内分泌系                      内分泌と外分泌、内分泌腺の種類、ホルモンの特徴</p> <p>5.泌尿器系                      腎臓、尿管、膀胱、尿道</p> <p>6.感覚器系                      外皮、視覚器、平衡聴覚器</p>
テキスト 参考書	PT・OT ビジュアルテキスト解剖学第1版 羊土社
評価の方法	定期試験（筆記）100%
授業の形式 受講上の注意	座学 ＊場合により WEB 授業となる

理学療法学科 1年

授業科目名	機能解剖学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	機能解剖学
担当講師	橋本宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法評価、治療に必要な触診を学習する。</li> </ul> <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の部位名、筋の起始停止などについて説明できる。</li> <li>・筋の走行から関節運動を説明できる。</li> <li>・筋の走行から姿勢、触診部位、指の当て方、運動の誘導などを考えられる。</li> <li>・触診の強さに配慮できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>オリエンテーション</p> <p>上肢・下肢・体幹の骨の触診</p> <p>上肢・下肢・体幹の筋の復習</p> <p>上肢・下肢・体幹の筋の触診</p> <p>下肢を中心とした靭帯の触診</p>
テキスト 参考書	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢、下肢・体幹)：メディカル ビュー
評価の方法	<p>小テスト</p> <p>筋の起始・停止の確認（面接にて）</p> <p>実技試験</p>
授業の形式 受講上の注意	<p>実技形式</p> <p>注意：服装は実習着とする</p>

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	生理学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生理学 I
担当講師	森澤 文博
授業の目的	<p>方向目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヒトは生体内外の種々の変化に適応し全体として調和のとれた生命現象を営んでいる。この調和が崩れたものが疾病であり、今後疾病を理解するうえで重要なヒトの正常機能を暗記ではなく、理解する</li> </ul> <p>到達目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 下記分野の国家試験問題が解けること</li> </ul>
授業の概要	<p>physiology(生理学)とは</p> <p>第1章 生命現象と人体</p> <p>第2章 細胞の構造と機能</p> <p>第3章 神経の興奮伝導と末梢神経</p> <p>第4章 中枢神経系</p> <p style="padding-left: 20px;">A) 中枢神経系とは</p> <p style="padding-left: 20px;">B) 脊髄</p> <p>◇ 終了後中間試験</p> <p>第5章 筋と骨</p> <p>第6章 感覚</p> <p>第7章 血液</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学:医学書院 適宜必要教材を提示する
評価の方法	中間テスト:40% 期末テスト:60%
授業の形式 受講上の注意	座学形式

作業療法学科 1 年

授業科目名	リハビリテーション管理学
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	リハビリテーション管理学
担当講師	
授業の目的	<p>作業療法士として勤務する場合、対象者の持っているリスクを把握することは当然のこと、危機を防ぐマネジメント能力が不可欠である。本授業では臨床に限らず、教育・研究・地域における管理・マネジメント全般について取り上げ、ディスカッションを含めながら理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。</li> <li>・個々の対象者に対して必要なマネジメントを構築し、短・中期プランを構築できる</li> <li>・教育・研究・地域領域においてリスク管理ができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理・マネジメントの概念（作業療法士の法律と周辺的环境）</li> <li>・管理・マネジメントの概念（作業療法士の行う管理・マネジメント）</li> <li>・作業療法管理学とは</li> <li>・作業療法士の職業倫理</li> <li>・組織運営とマネジメント</li> <li>・教育・研究のマネジメント</li> <li>・保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント</li> </ul>
テキスト 参考書	大庭潤平・他：作業療法管理学入門. 医歯薬出版, 2018.
評価の方法	レポート課題 筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学形式

作業療法学科 1 年

授業科目名	基礎作業学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	基礎作業学	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	<p>①作業療法で扱う「作業」について理解を深める。</p> <p>②作業療法の理論について基礎を学び、作業療法評価を体験する。</p> <p>③多種ある作業活動を治療的に用いるための基礎的知識を学ぶ。</p>	
授業の概要	第 1 回	私の考える「作業」とは <到達目標> ①自分の「作業」を知ることができる。 ②作業療法における作業の意味を理解できる。
	第 2-3 回	作業学や作業科学について <到達目標> ①人・環境・作業の関係性を説明できる ②作業科学について概要を理解できる。
	第 4-10 回	作業療法を観る <到達目標> ①動画を見て作業療法の概要を知ることができる。 ②動画の作業療法を自分の言葉で記載できる。 ③動画の作業療法について、他の学生と討論できる。
	第 11-12 回	諸理論と作業療法 <到達目標> ①CMOP-E や COPM 等の基礎がわかる。 ②人間作業モデルや OSA 等の基礎がわかる。 ③その他の理論等 (CBT、ABA、OTIPM、トランザクショナルモデルなど) も含め、理論と評価の繋がりを体験できる。
	第 13-14 回	作業・活動分析、作業遂行分析の導入と総まとめ <到達目標> ①各分析を区別して概要を説明できる。 ②各分析の大枠をとらえることができる。 ③上記の学習内容を振り返り、復習ができる。
	第 15 回	定期テスト (第 1 回から 14 回で学んだ内容について)
テキスト 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「作業」って何だろう 作業科学入門</li> <li>・作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学</li> <li>・準備資料 (配布資料)</li> </ul>	
評価の方法	レポート課題、定期テストの合計得点が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など	

作業療法学科 1 年

授業科目名	作業療法概論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法概論
担当講師	国近 敏伸
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	①作業療法の概要を理解し、作業療法を学ぶ上での指針を持つ。 ②作業療法士になるために必要な教育課程・制度について理解する。 ③作業療法士としての持つべき態度、資質と適性について述べることができる。
授業の概要	1-3 回 健康と作業療法 障害予防と人権 国際生活機能分類と作業療法 <到達目標> ①作業療法の定義について説明できる ②作業療法の歴史について説明できる ③作業療法の領域と対象について説明できる  4-6 回 作業療法教育の最低基準 実習について 関連法規 <到達目標> ①理学療法士及び作業療法士法について説明できる ②個人情報保護法について説明できる ③コンプライアンス・法令違反について説明できる ④ハラスメントについて説明できる  7-9 回 日本と世界の作業療法 <到達目標> ①世界の作業療法について説明できる ②作業療法の教育体系について説明できる  10-12 回 身体障害、精神障害、小児・高齢期領域の作業療法 テーマ発表準備 <到達目標> ①各領域において作業療法の流れを説明できる  13-14 回 発表: 身体・精神・小児・高齢期の代表的な疾患を例に作業療法を紹介 <到達目標> ①作業療法のプロセスについて説明できる  15 回 定期試験
テキスト 参考書	標準 作業療法学 専門分野 作業療法学概論第 3 版 医学書院 配布資料
評価の方法	定期試験 課題発表(別紙の資料参照)
授業の形式 受講上の注意	講義を中心とする(3 回程度の小テストを実施) グループワーク 状況によりオンライン講義

作業療法学科 1年

授業科目名	作業療法管理学
区分	専門分野
学期、コマ	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法管理学
担当講師	国近 敏伸
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	①医療現場の組織運営について学び、安全やサービスについて考察する。 ②作業療法士の役割・職域や倫理、関連法規について学ぶ。 ③他職種の専門性と作業療法士との関係について学ぶ。
授業の概要	<p>1-2回 作業療法とマネジメント 組織とマネジメント          &lt; 到達目標 &gt;          ・身近な課題に対してマネジメントが立てられるようになる。          ・組織における作業療法士の役割を説明できる。</p> <p>3-4回 情報のマネジメント 医療サービスのマネジメント          &lt; 到達目標 &gt;          ・情報を扱う上での注意事項を上げることが出来る。</p> <p>5-6回 医療安全とマネジメント 人・物・経済性のマネジメント          &lt; 到達目標 &gt;          ・作業療法機器の保守点検・安全管理について説明できる。          ・作業療法の診療記録と書類管理（電子カルテなどを含む）について説明できる。          ・人事考査（職員採用・昇格審査など）について説明できる。          ・労務管理（勤務時間・休暇管理など）について説明できる。</p> <p>7-8-9回 グループワーク課題と準備 発表          &lt; 到達目標 &gt;          ・情報・時間・ストレスのマネジメント 実践からの学び 他職種連携について          ・作業療法の実施とその対価（診療報酬・介護報酬）について説明できる。          ・他職種との業務調整（処方内容の確認、他職種への申し送り）について説明できる。</p> <p>10-11-12回 職業倫理 諸制度について 臨床実習について          &lt; 到達目標 &gt;          ・作業療法の実施に関わるカンファレンスについて説明できる。          ・作業療法機器の配置計画（職場環境デザインを含む）について説明できる。</p> <p>13-14回 キャリア開発 まとめ          &lt; 到達目標 &gt;          ・認定作業療法士と専門作業療法士の資格制度について説明できる。</p> <p>15回 定期試験</p>
テキスト 参考書 準備するもの	『作業療法管理学入門』 医歯薬出版株式会社 配布資料 など
評価の方法	定期試験 発表課題（評価基準は別紙参照）
授業の形式 受講上の注意	座学・グループワーク 状況によりオンライン講義

作業療法学科2年（1年次未実施）

授業科目名	作業療法概論実習
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 45時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法概論実習
担当講師	作業療法学科教員
授業の目的	<p>作業療法の実施の場を通してリハビリテーション及び医療・福祉サービスの全体像を理解する。</p> <p>通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションを経験し、地域での作業療法活動を理解する。</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の訓練・援助あるいは他部門での介護等、施設での様々な活動を通してリハチームの中での作業療法士の役割と他部門との関係を理解する。</li> <li>2. 対象者および職員とのコミュニケーションの重要性とその方法について実践的に学び、障害者の理解および関連職種への理解を深める。</li> <li>3. 対象者および職員に接することで、障害を持つ人への対応や社会人としての態度など基本的姿勢を学ぶ。</li> <li>4. 自分の職業（作業療法士）に対する適性について考える。</li> <li>5. 臨床体験することで学校での学習をより具体的イメージを持って捉え、第2学年へ向けて学習意欲を高める。</li> </ol>
テキスト 参考書	
評価の方法	実習の手引き参照
授業の形式 受講上の注意	

作業療法学科 1 年

授業科目名	作業療法評価法 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法評価法 I	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①作業療法治療に必要な不可欠な関節可動域測定の概要を学ぶ。 ②関節可動域測定を実技として実施できる。 ＊作業療法評価法概論と関連させながら講義を進める。	
授業の概要	第 1 回	関節可動域測定の基礎 《到達目標》 ①関節可動域測定の意義と目的を説明できる ②運動面、運動軸、運動制限について説明できる
	第 2-5 回	上肢の関節可動域測定 《到達目標》 ①上肢の関節可動域測定の手順と注意事項を説明できる ②上肢の関節可動域測定を実施し、その結果を記録できる
	第 6 回	小テスト・復習 テスト範囲：上肢の基本軸、移動軸、参考可動域、肢位及び注意点 テスト形式：記述
	第 7-10 回	下肢の関節可動域測定 《到達目標》 ①下肢の関節可動域測定の手順と注意事項を説明できる ②下肢の関節可動域測定を実施し、その結果を記録できる
	第 11 回	小テスト・復習 テスト範囲：下肢の基本軸、移動軸、参考可動域、肢位及び注意点 テスト形式：記述
	第 12-14 回	体幹の関節可動域測定 《到達目標》 ①体幹の関節可動域測定の手順と注意事項を説明できる ②体幹の関節可動域測定を実施し、その結果を記録できる
	第 15 回	実技試験 テスト範囲：第 2-5 回、第 7-10 回までの演習内容 テスト形式：実技
テキスト 参考書	標準作業療法学 作業療法評価法	
評価の方法	筆記試験（小テスト 2 回）：各 20 点 実技試験：60 点 筆記試験および実技試験を合計し、60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	授業形式：座学，実技で行う。場合により、オンラインにて実施する。 受講上の注意：実技の際は実習着を着用すること。 必要な評価機器は指示を行う。	

作業療法学科 1 年

授業科目名	作業療法評価法概論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法評価法概論	
担当講師	亀山 一義	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	「作業療法は評価に始まり、評価に終わる」と言われるほど作業療法評価は重要である。本講義では、対象者を理解することに不可欠な作業療法評価を理解し、実施できるようことを目的とする。	
授業の概要	第 1 回	作業療法の理解 《到達目標》 ①：「作業療法」を理解する。 ②：「作業療法」を他者に説明できる。
	第 2 回	作業療法と評価 《到達目標》 ①：作業療法評価を理解することができる。 ②：作業療法評価の意味や意義を理解する。 ③：作業療法評価の意味や意義を説明できる。
	第 3-4 回	面接法・観察法 《到達目標》 ①：面接および観察の目的と種類を理解する。 ②：面接および観察の基礎知識を身につける。 ③：面接および観察を実行する。
	第 5-7 回	意識障害の評価とバイタルサイン 《到達目標》 ①：全身状態とバイタルの関係を理解する。 ②：正常な意識状態やバイタルを理解する。 ③：バイタル測定を実施する。
	第 8 回	テスト（筆記） テスト範囲：第 1-8 回までの講義内容 テスト形式：記述
	第 9 回	テスト（実技） バイタル測定（脈拍および血圧測定）
	第 10-12 回	形態測定 《到達目標》 ①：形態測定の意義と目的を説明できる。 ②：形態測定の方法を説明できる。 ③：形態測定を実施する。
	第 13-14 回	実技テスト 形態測定（長さおよび太さの測定）
	第 15 回	まとめ
テキスト 参考書	標準作業療法学	

評価の方法	テスト（筆記および実技）で 60 点以上を合格とする.
授業の形式 受講上の注意	座学（場合により web での講義もあり）

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科1年

授業科目名	日常生活活動
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①日常生活活動について、その概念・範囲、評価などについて理解をする。 ②基本的な動作についてその方法・介助方法を理解し、実践できる。	
授業の到達目標	授業の到達目標 1. ADL の概念や範囲について理解する 2. 全介助での動作指導、動作介助が作業療法士の視点で実施できる 3. 紙面上の ADL の評価や自助具の作成ができる	
授業の概要	第1回	ADL の概念と範囲 《到達目標》 ①：ADL の概念と範囲を理解する ②：ICF における位置づけを理解する
	第2-5回	ADL の評価 《到達目標》 ①：量的評価と質的評価を理解する ②：ADL の評価法を列挙できる ③：FIM の得点を模擬患者につけることができる
	第6-11回	全介助の動作を学ぶ 《到達目標》 ①：起居動作と移乗動作の全介助での実践ができる
	第12回	実技試験 テスト範囲：第6-11回までの演習内容 テスト形式：実技
	第13-14回	自助具の作成 《到達目標》 ①：自助具を理解する ②：万能カフを作成することができる
	第15回	確認テスト テスト範囲：第1-5回、13-14回の講義内容 テスト形式：記述 MTDLP の導入
テキスト 参考書	・ADL PT・OT ビジュアルテキスト 羊土社 ・その他必要に応じて資料の配布をします	
評価の方法	・自助具作成        20点 ・実技試験         50点 ・確認テスト       30点 合計100点（60点以上を合格とする）	
授業の形式 受講上の注意	・講義と実技を行う ・場合により、オンラインにて実施する	